【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成24年7月19日(2012.7.19)

【公開番号】特開2010-278996(P2010-278996A)
【公開日】平成22年12月9日(2010.12.9)
【年通号数】公開・登録公報2010-049
【出願番号】特願2009-132425(P2009-132425)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｓ　7/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｓ　7/00　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成24年5月31日(2012.5.31)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
外部音源から入力された音響信号を複数のスピーカへ送信して再生する音響再生装置に前記複数のスピーカが接続された音響再生システムであって、
前記音響再生装置から前記複数のスピーカへ送信されるそれぞれの音響信号に制御信号を重畳させて送信する送信手段と、
前記送信手段によって送信された制御信号に応じて、前記複数のスピーカが予め定められた応答信号を発音する発音手段と、
前記発音手段によって発音された応答信号を収音する収音手段と、
前記収音手段によって収音された応答信号に応じて、前記音響信号を再生する際の音響制御を実行する実行手段と、
を有することを特徴とする音響再生システム。
【請求項２】
前記発音手段は、前記制御信号が初期設定を指示する場合には、前記複数のスピーカに記憶されているスピーカの種別を識別する情報を前記応答信号として発音することを特徴とする請求項１に記載の音響再生システム。
【請求項３】
前記発音手段は、前記制御信号がスピーカの周波数特性を変更する音響制御を指示する場合、前記スピーカの音響特性パラメータを変更した結果を前記応答信号として発音することを特徴とする請求項１に記載の音響再生システム。
【請求項４】
前記発音手段は、前記制御信号がスピーカの状態を検知する指示の場合、前記スピーカの動作状態を前記応答信号として発音することを特徴とする請求項１乃至３の何れか１項に記載の音響再生システム。
【請求項５】
前記収音手段は、マイクロフォンによって前記複数のスピーカから発音された応答信号を収音することを特徴とする請求項１乃至４の何れか１項に記載の音響再生システム。
【請求項６】
外部音源から入力された音響信号を複数のスピーカへ送信して再生する音響再生装置であって、

前記複数のスピーカへ送信されるそれぞれの音響信号に制御信号を重畳させて送信する送信手段と、
前記送信手段によって送信された制御信号に応じて、前記複数のスピーカで発音された応答信号を収音する収音手段と、
前記収音手段によって収音された応答信号に応じて、前記音響信号を再生する際の音響制御を実行する実行手段と、
を有することを特徴とする音響再生装置。
【請求項７】
外部音源から入力された音響信号を複数のスピーカへ送信して再生する音響再生装置に前記複数のスピーカが接続された音響再生システムの制御方法であって、
前記音響再生装置が、前記複数のスピーカへ送信されるそれぞれの音響信号に制御信号を重畳させて送信する送信工程を実行し、
前記送信工程において送信された制御信号に応じて、前記複数のスピーカが予め定められた応答信号を発音する発音工程を実行し、
前記音響再生装置が、
前記発音工程において発音された応答信号を収音する収音工程と、
前記収音工程において収音された応答信号に応じて、前記音響信号を再生する際の音響制御を実行する実行工程と、
を実行することを特徴とする音響再生システムの制御方法。
【請求項８】
外部音源から入力された音響信号を複数のスピーカへ送信して再生する音響再生装置の制御方法であって、
送信手段が、前記複数のスピーカへ送信されるそれぞれの音響信号に制御信号を重畳させて送信する送信工程と、
収音手段が、前記送信工程において送信された制御信号に応じて、前記複数のスピーカで発音された応答信号を収音する収音工程と、
実行手段が、前記収音工程において収音された応答信号に応じて、前記音響信号を再生する際の音響制御を実行する実行工程と、
を有することを特徴とする音響再生装置の制御方法。
【請求項９】
コンピュータに、請求項７に記載の音響再生システムの制御方法又は請求項８に記載の音響再生装置の制御方法の各工程を実行させるためのプログラム。
【請求項１０】
請求項９に記載のプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。